



江戸の五街道として知られる東海道と中山道が通る栗東市には、今もその街道文化が色濃く残っています。市内には、宿場と宿場の間で旅人が足を休めた「立場」が3か所あります。東海道沿いの梅ノ木立場と目川立場、そして中山道沿いの中沢立場です。

今回はその中の一つ、目川立場の名産品「目川ひょうたん」をご紹介します。

目川は、旅人の必需品を扱う店や茶店にぎわっており、特に人気だったのが、旅人の茶器や酒器として重宝されていた目川ひょうたんでした。

■ 目川立場の目川ひょうたん (栗東市)

豊かな街道文化 魅力感じて



目川ひょうたんは、江戸時代中期から明治時代にかけて、目川地域の農家の副業的地場産業で、明治35年(1902)年の記録には、同地域で約9千個のひょうたんが生産されたといわれます。今日でも目川ひょうたんは縁起物として親しまれているものの、生産者の高齢化により生産組合が

解散し、生産者はただ一人となつていきました。そんな中、目川ひょうたんの新たな活用方法で注目されています。ハワイの伝統的な民俗舞踊「フラ」の楽器の一つである「イプ」

ひょうたんを使った楽器を指します。この楽器に興味を持ったのは、市内でフラダンスを教える「ハーラウ オレクールア」の木上(こうじ)さん。目川ひょうたんを知ったことがきっかけで、イプとして活用するアイデアを思いついたそうです。栗東の街道文化とハワイのフラ

文化の出会いによる今後の動向に目が離せません。目川ひょうたんはJR手原駅内の栗東観光案内所で購入できます。また、東海道沿いにある目川ひょうたんの展示販売所「俊健」では、さまざまな形の目川ひょうたんを見ることが出来ます。目川ひょうたん以外にも、豊かな街道文化が数多く残る栗東市にぜひ足を運んで、その魅力をじかに感じてみてください。

目川ひょうたんの展示販売所「俊健」栗東市目川で、大小さまざまな形の目川ひょうたん。昔ながらの製法で一つ一つ手作りしている。栗東市手原の栗東観光案内所で



目川ひょうたんの紹介を含む栗東市観光協会のホームページはこちらから

これまでの「しが旅のススメ」はこちらから

◇ 【アクセス情報】栗東観光案内所はJR手原駅2階。名神高速道路栗東インターチェンジ(IC)より約3分。案内所077(551)0126